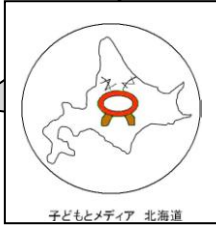


子どもとメディア 北海道

第23号

2016年
2月発行

今期第3号



子どもとメディア 北海道

第8回子どもとメディア全国フォーラム

ネットが人類にもたらしたもの～子どもの育つ権利・学ぶ権利を考える～

2016年1月23日・24日 於:福岡市立西市民センター

行ってきました！！
学んできました！！

★よりによって、あの北九州地方暴風雪の日がフォーラムでした。

「ここは札幌か!？」と突っ込みながら暴風雪の中を歩きました。でもそんな荒天なんて吹き飛ばすような学びがありました。今回うれしかったのは、北海道から私以外に3名の方の参加があったことです。

お一人目は、厚真町の教育委員会の方。12月に厚真町に呼んでもらった時にフォーラムを紹介したら、町からの派遣として参加してくれたのです。後の二人は、白老町のお助けネットの大黒柱でもある北平さん(子どもとメディア北海道の会員)と、その娘さん(高校3年生)。この母娘さん、「おもしろかったあ」「なかなか聞けない話を聞けてよかったあ♥」と、寒い中でもとても楽しそうでした。素敵ですね!

★今回の報告は、この3人の方の協力も得て、作成しました。ご協力ありがとうございました。

基調講演 池上彰! ネット社会を斬る!

- ☆ あの池上彰さんです。一般の方も大勢いらしていました。池上さんは飾らないお人柄で、開口一番に「NPO子どもとメディア代表理事の清川さんが、NHK時代の上司なので、登壇依頼に逆らえませんでした」と笑いをとりました。基調講演の内容は、NPO子どもとメディア専務理事の古野さんのメモを参考にまとめます。

◎「週間こどもニュース」の11年間に見た子どもとメディアの関わり

- ・1994年放送開始時、質問の受付は、手紙・FAX・留守番電話だったが、年々メール急増。専用アドレス開設。留守番電話は使われなくなってきたので止めた。
- ・11年間で子どもの本質は変わっていないが取り巻くメディア環境は激変し、いち早く子どもは使えるようになると実感。

◎メディアが世の中を変えてきた

- ・シリア難民のヨーロッパ移動はスマホの力。
- ・ラジオが日本の国家意識を作った。
- ・アメリカのCBSラジオドラマ「火星人来襲」で全米がパニック。
- ・ルワンダ内戦では、憎悪を生むラジオ放送が、大量虐殺を生んだ。
- ・ベルギーでは、テレビドラマが分裂の危機を深めた
- ・ラジオで国民を団結させたアイゼンハワー。
- ・テレビ対策で大統領選挙に勝ったケネディ。
- ・偏った放送で苦境に立つオバマ。
- ・ベトナム戦争: 悲惨な戦場を伝える報道で、反戦運動が高まった。
- ・湾岸戦争: 報道を規制。嘘ではないが勘違いが起きる「ピンポイント攻撃」映像。
- ・イラク戦争: 「米軍視点」で放送したFOXニュースが人気に→視聴者は見たいものを見る
- ・東西冷戦の危機感から米軍で生まれ、東西冷戦の終焉で民間に広がったインターネット
- ・インターネットで不安・不満・居場所のない若者を誘惑するイスラム国

トークセッション： ネットが人類にもたらしたもの～子どもの育つ権利・学ぶ権利を考える～

☆村田郁也先生(福岡教育大学)・内海裕美先生(日本小児科医学会子どもとメディア委員会担当常任理事)

清川輝基先生(NPO子どもとメディア代表理事)の3人と池上氏の4人で2時間のトークセッション。

【内海裕美先生】

- ・乳幼児期の子育てへの影響：赤ちゃんは変わらない→授乳・おむつ換えなどの世話をやさしく適切にすることで、基本的信頼感が育まれる。→スマホで黙らせる、あやす関わりでは、言葉や基本的信頼感が育たない。情動調律の機会を奪っている。
- ・中高生への影響：スマホを持っていることでやれないことのある苛立ちを抱えている。学力の低下を招いている。
- ・それぞれの家庭を責めても解決しない。責められれば、追い詰められる人もいる。ジレンマを持ちながらも、家庭の機能を支援者(社会)が補完していくことが必要。子どもの育ちを保障することが、子育て支援の目的であることを忘れずにいたい。
- ・ワクチンの摂取率が上がってきたように、「スマホに子守をさせていた時代もあったんだね。」というような未来にしたい。
- ・ルールを作っただけでは、終わりではない。親と子の「約束」と「対話」が必要。しかしながら思春期に「対話」するには、乳幼児期からの関係の構築がないと無理。「愛着」→「信頼」→「しつけ」→「対話」。目の前の子どもをつかまえていないのに、対話をすることはできない。

【清川輝基先生】

- ・先日中学生のカウンセリング時「ゲームの世界で体験したことを戦場に行ってみてみたい」→想定外のことを想定する必要。
- ・日本の大人は、子どもたちの「最善の利益」を保障しているか。ヨーロッパでは16歳以下のガラケーを禁止したり、韓国でも規制がある。国(大人)が動いている。日本はどうか。
- ・学校教育にタブレット→韓国では2年で見直し。OECD(31カ国)では、「コンピューター導入比率が高い国ほど学力が低い」との報告もある。
- ・子どもの脳や視力や体を守るために、法的規制が必要なのではないか。乳幼児が使う肌着や食器に規制があるように。
- 業界の自主的ルールづくりとあわせて、「製造物責任法」などの法規制も必要ではないか。

【村田郁也先生】

- ・メディアが伝える内容よりも、メディアそのものから受ける影響が大きい。
- ・「教育」とは、「学び」のパターナリズム。パターナリズムとは、何をどのように学ぶかを本人のために介入(干渉・おせっかい)すること。子どもの学ぶ権利・教育を受ける権利を考えると、「あなたのためだから」と、介入することは、権利侵害ではなく大人としての責任を果たすことである。
- ・何を見て、何を聞き、何を触り、何を知り、何をわかり、何を考え・・・
- 成長とともに左から右に移行する必要。
 - 「自然物」→「人工物」
 - 「直接的」→「間接的」
 - 「ポジティブ」→「ネガティブ」
 - 「与えられる」→「選ぶ」
- ・18歳までは、「使用制限」と「情報モラル教育」の両方を行っていくことが必要。

【池上彰先生】

- ・歴史に学ぶと、新しいメディア→想定外のことが起きる。翻弄され思いもかけない事態。若者や子どもへの悪い影響も。→新しい子育ての仕方を提案し、今のメディア環境の中での道程を日本中に広めてほしい。
- ・学力が高い県を調べると、塾に行っている割合が低いことや、早寝・早起き・朝ご飯の習慣、ネットやゲーム漬けではない共通点。
- ・ゲーム会社やケータイ大手会社の果たす役割を社会全体で伝え続けていく必要。

NPO子どもとメディア全国フォーラムに参加して

～北海道から参加の3人の方に、感想を寄せていただきました～

厚真町教育委員会の横山守さん

2日目に、私が参加した分科会B「小学生のメディア過剰接触へのアプローチ」について、資料を送りますね。

Bの分科会では、『ジュニアインストラクターの養成』についてと、『シアタープロジェクトの取り組み』について、興味深い事例発表がありました。

ジュニアインストラクターの養成

小学生向きの啓発講演を行い、ジュニアインストラクターの養成をし、その子が、親や下級生にメディアの話をして、広げていくという活動です。

★A（小学生に受講後配布する「ジュニアインストラクター認定書」を会員の方には、資料として送りますね。）

シアタープロジェクト

メディアに振り回されている家庭の様子を劇にして、小学生に観せて、【父親、子ども（小6女）、子ども（小3男）】が、具体的に言葉や行動をどう改めれば、幸せな家庭になるか、小学生から意見を出させ、出された意見に従って、その場で劇を変えていくというものでした。

実際の劇のビデオを見せていただきました。子どもたちからの意見で、同じシーンの場面を3回修正して、1回目より、家族らしい雰囲気仕上がっていききました。

課題としては、学校現場では、シアタープロジェクトの時間がなかなか思うようにとれないということ、先生方にこの劇の手法を取り入れてやってほしいと思っても、学校では、時間、人材、実施ともに、お願いするのは難しいようです。

★小学生自身が「親や下級生にアウトメディアの大切さ」などを伝える・・・という取り組みを紹介してくれました。中谷も似たような取り組みとして、苫小牧市日新小学校4年生に「おうちの人に伝えてね！」というタイトルで授業したところ、こんな感想が届きました！（一部の抜粋です） 4年生という思春期の入り口の子どもたち、自己コントロールへの意欲や、大人に対しての鋭い意見にびっくりです。

- ・家族に教えたいことは二つあります。スマホのかしかりをしないことと、家族でルールを決めることです。
- ・家に帰って伝えたいことは、ゲームの時間のことです。うちは、ゲームのせいげんがないので、ゲームの時間を決めてないから、つけてもらいます。
- ・家族につたえたいことは、スマホをやりすぎると体によくないと言うことです。
- ・家族には、ゲームをやめられない病のことや、子どもがボタンをおして、お父さんの大切なじょうほうをネットにながしちゃったことを話したいです。
- ・私が1番印象に残っているのは、家族との会話です。私の家では、ご飯の時、テレビを付けているので、これからはテレビを消して、会話をふやしたいです。
- ・弟とカードゲームをこれから1日1回したいと思います。それとゲームをひかえめにすいみんをとることを大切にしたいと思います。弟もゲームっ子なので2時間以上やってた時は、しかってやろうと思います。
- ・私の家は母しかいないので、母は私にさびしい思いをさせていると思っているのでしょうか、スマホやゲームにうるさくありません。でも今回のじゅぎょうで、せいげんをしないと思わぬことになる可のうせいがあることを知りました。母も、スマホゲームをよくするので、ちゃんと言ってみます。私は絵をかくことが好きなので、絵をかく時間を長くして、ゲームをする時間を短くします。

横山さんは、全体会の際、会場から挙手して、厚真町の取り組み（学びの場や啓発）を発表され、会場から盛大な拍手が起きました。

白老町にお住まいの北平美樹さん・菜々子さん(高3)親子

中高生になれば、北平親子のように、我が子に親がしつめるというより、一緒に大人としていろんな情報を元に語り合うというのが、親の思いも伝わりやすいのですね。

今まで漠然と子どもとメディアに関して、違和感・危機感を感じてはいましたが、慣れと、諦めと曖昧に過ごしていたかもしれない日常。

しかし、2 日間研修を受け、様々な専門分野の方々からお話を聴くことにより、子どもとメディアの問題の奥深さ、はたまた、メディアと子どもだけの問題を考えるのではなく、様々な事が絡み合い複雑化していること、世界全体で取り組んでいかななくてはならないと思われる大きな社会問題と同時に、情報化社会、IT教育という現実、子どもの健全な成長発達が保障される世の中は大丈夫なのか、原点に戻って考えるきっかけになったような気がします。

始めに、とても楽しみにしていた池上彰さんの講演「ネット社会を斬る」を聴き、メディアと戦争の歴史、世界情勢とメディアが深く関わっていること、特に発展途上国の裸足で生活している子どもたちが、教育もまともに受けられていない環境の中、先進国によるメディア市場のターゲットにされ、簡単にスマホを持っているという現実。メディアを利用した、世界各国からのIS戦闘員参入…。そこには道徳心も教育も何もない現実…。その裏にある奥深い問題。

また日本でも、ゲーム等の作りまくり、売りまくり市場と、経済活性化のためにそれを黙認している政府。中には、現実とゲームの世界が混同し感化していく子ども。子どもを情報消費化社会の消費者にしまっている大人の責任の重さはどこにいくのか。そのことにより、どれだけの危険が伴っているのか…考えただけでも恐ろしく不安を感じました。

様々な環境に置かれている(投げ出されている?)子どもたち。まさしくメディアという見えない世界に無防備に投げ出されているようではありません。

池上さんは「子どもの本質は変わっていない。子どもを取りまくネット環境・メディア環境が変わっているのだ。」とおっしゃいましたが、心身ともに子供の発達に大きく影響していることが研究結果でもはっきりしてきています。中、本質が変わっていくのでは、いやもう変わっているのではと危惧しています。

大きく考えすぎると、自分たちはもう何もできないのかと思ってしまうのですが、足元を見つめ、今できることは何か、大切にしたいことは何か考えてみました。

そうすると、やはり子育て支援の原点と同じ事に行きつくのです。

「子どもは国の宝物(いえ、世界の宝物だと思うのです)。皆で育てていく。子どもの最善の利益を守るのは大人の責任。」お助けネットの活動の柱「0 歳～20歳までの子どもの健全な成長発達が保障される地域社会の実現を目指して活動していく」。これにつけるのかなと思うのです。

ハード面で考えると「メディアの制限・規制」「情報モラル教育・啓発活動」は必須だと思います。そして子どもだけではなく、子どもをとりまく大人が、社会が、メディアがもたらす子どもへの影響について充分知り、実践していかななくてはなりません。どんな教科書より子どもは大人の行動を見ているのだと思います(私も胸がいたいです)。

様々な家庭環境下の中で育っている子どもがいます。安心できる居場所がある。好きになる事を見つけるだけでもきっと違うでしょう。

分科会「小学生のメディア過剰接触へのアプローチ」では、実践されている講師の方々が、細やかな配慮を忘れず子ども達と向き合いながら、丁寧にプログラムを実践し、「待つ」支援、「共感する」支援をされており、まさ

に「コミュニケーション支援」が大きな根っこであるという事にも共鳴しました。

情報化社会はますます発展するでしょう。だからこそ、大人が責任を持って、子どもが生の人間関係、信頼関係が築けるような社会づくりを意識していかなければならないと改めて思います。

自己肯定感を育みいきいき生きていくには、メディアだけに頼る生き方ではなく、大人も子どもも、人間の本質を失わない生き方ができる社会になることを願って報告いたします。

(追伸:高 3 の娘と研修に参加できたことで、メディアについて個人の問題だけではなく社会の問題として一緒に感じる事ができたことが何よりでした。ありがとうございました。)

【白老町在住 北平美樹】

日本は物質的、経済的に発達することを第一優先として現在に至る。豊かさの象徴であるかのような人工物や、無機質な空間が増えることにより、様々なところでその代償ともいえるような問題が起こっている。子どもとメディアの関係はそれを顕著に表している、と今回のフォーラムで改めて勉強させていただいた。

高校生という立場なので、メディアについて学ぶ機会というのは学校のメディアリテラシーの授業くらいであり、節度をわきまえたメディアの使用、ネットトラブルや犯罪への注意という観点からしか学べていなかった。そのため、子どもの身体の発達という視点からメディアのもたらす影響について学べたことは新鮮だった。特に、メディア依存に陥っている小学生の実態、メディアから遠ざけた環境をつくっている保育園の実態を聞いたことはこれから私が大学で学ぼうとしていることをより深めてくれると思う。(★B分科会Cの資料から、「保育現場から見た子どもたちの現状とその対策」を抜粋して、会員の方には配布しますね。)

メディアが子どもの発達を歪ませ、人格の形成や、人間として生きていく力・知恵を育む機会を奪っているということを直接現場にいらっしゃる先生のお話を聞いて現実に行っている切実な問題だと認識できた。また、杜撰なメディア利用が普及しているこの社会で、子どもたちが健全に成長できる環境として五感や感受性、対話力、自己肯定感、大人と子どもの信頼関係を築く保育を提供している現場のことを初めて知り感動した。

私はまだ学生の身であり、できることは少ない。しかし、メディアに関する知識を得、理解を深めることは今後の人生に大きく影響していくと考えられる。大学生になってからもメディアが子どもたちへどのように影響しているのかを学んでいきたい。(一緒に学べる学生が増えるといいなというのが今の願望です。)

【登別明日中朝教育学校6回生 北平菜々子】

H27年11月からH28年1月までの活動報告 & 今後の講演予定

月日	テーマ	行事名・主催者等	担当
11月2日	中学生授業・PTA向け講演会	芽室中学校	中谷
11月3日	乳幼児への電子メディアの影響	育児ネットめむろ	
11月5日	電子メディアに奪われる子どもたち 子どもの心と体を育てるために大切なこと	東川小学校 PTA 研修部 教育研究会	諏訪
11月6日	就学時健診 アウトメディアの必要性	厚真中央小学校	中谷

11月7日	5・6年生参観日授業	登別市富岸小学校	中谷
11月10日	就学時健診 アウトメディアの必要性	上厚真小学校	中谷
11月12日	ネット利用と睡眠・学習時間の関係について	蘭越中学校	諏訪
11月13日	ネット社会を生きる子どもたち	富良野地区高等学校PTA	中谷
11月15日	子どもの発達への電子メディアの影響	別海町野付幼小中PTA	中谷
11月16日	アウトメディアの必要性と方法	別海町教頭会	
11月17日	望ましい生活習慣とルールづくり	札幌市羊が丘中学校PTA	中谷
11月24日	子育てのコツとヒント・アウトメディアの必要性	恵庭幼稚園	中谷
11月26日	しっかり守る ゲームとスマホの時間とルール	江差町PTA連合会研究大会	中谷
11月27日	中学生への授業	江差北中学校	
11月28日	考えよう大人の役割 ～子どもたちの未来を守るネット対策～	滝川市PTA連合会研究大会	諏訪
11月28日	子どもとメディアの良い関係～大人はスマホ社会の子どもたちとどう向き合うか～	中標津小中合同PTA研修会	中谷
11月29日	メディアコントロール～電子メディアと上手につきあう子育てについて～	別海町中春別小中学校合同研修会	中谷
12月1日	ネット社会に生きる子どもたち ～家庭で今、すべきこと～	千歳市信濃小学校	中谷
12月2日	子どもの発達への電子メディアの影響	江別市保育士会	諏訪
12月3日	緑丘小学校参観日授業と講話	白老町教育委員会	中谷
12月4日 ★C	基調講演「ネット社会に生きる子どもたちのために～課題と向き合い、今、何をすべきかを考える」 パネルトーク「ネット社会でどう生きていくか」	「心の教育推進フォーラム」(札幌) *パネルトークのパネラーとして、白老町家庭教育支援チーム員で、子どもとメディア北海道の会員でもある吉原芳美さんが登壇!	基調講演は、諏訪代表
12月5日	向上運動実践教室～スマホのルールづくり～	厚真町教育委員会	中谷
12月7日	子育てを考えるつどい	清里町教育委員会	中谷
12月8日	子育て講座	清里町子育て支援センター	
12月10日	生徒・保護者への講話とワークショップ	むかわ中学校	中谷
12月11日	携帯電話・スマホの使い方	白老東高校	中谷
12月14日	5・6年生授業 スマホ社会の子どもたち、その現実と対応	白老小学校 五地区広域補導連絡協議会(苫小牧市)	中谷
12月16日	岩見沢東光中学校保護者対象講演会	空知教育局	中谷
12月18日	メディアと子どもたち ～子どもの心と体を育てるために大切なこと～	帯広第四中学校・帯広第五中学校エリア・ファミリー教育講演会	諏訪
12月18日	スマホ・ゲーム利用が生活に及ぼす影響について	平取高校	中谷
12月22日	中学校での授業「情報モラル」	積丹町教育委員会	中谷
12月25日	ネット社会に生きる子どもたち ～家庭で今、すべきこと～	むかわ町の先生の研修会	中谷
1月7日	メディアと子どもたち ～子どもの心と体を育てるために大切なこと～	寄宿舍研講演会(札幌)	中谷

1月14日	ネット社会に生きる子どもたち ～生活習慣について考える～	ネット利用を含めた望ましい子どもの生活習慣づくり研修会(札幌市)	諏訪
1月16日	基礎学力の育成と望ましい学習習慣、生活習慣の定着について	子どもの生活習慣づくり推進事業北海道の子どもたちの学力について考える会 in 名寄	諏訪
1月16日	ネット社会に生きる子どもたち	新ひだか町PTAなど	中谷
1月21日	4年生に授業	苫小牧市日新小学校	中谷
1月24日	全国リレートークで登壇	NPO子どもとメディア全国フォーラム	中谷
1月29日	中学校入学説明会での講話	白老町白翔中学校新入生保護者	中谷
	子どもを守るメディアとの付き合い方 ～依存させないために～	千歳の子育て支援を考える会 (千歳市)	
2月2日	電子メディアと子どもたちネットとメディアのリスクから子どもを守る	平成27年度 正和小学校PTA教育講演会(旭川)	諏訪
2月2日	子どもの発達と電子メディア	親子ふれあい学びカフェ積丹町教育委員会	中谷
2月5日	ネット利用も含めた望ましい生活習慣づくり	せたな町	中谷
2月7日	デジタル時代の子どもの脳と心 ～読み聞かせの大切さを考える～	平成27年度うちどく講演会 (恵庭図書館)	諏訪
2月9日	子どもの生きる力と大人の社会力	歌志内	中谷
2月10日	中学校入学説明会での講話	白老町白老中学校新入生保護者	中谷
2月12日	電子メディアが子どもたちに与える影響～子どもの心と体を育てるために大切なこと～	旭川医師会 成育講演会	諏訪
2月16日	ネット社会に生きる子どもたちのために～ ネット社会における課題と大人の役割～	砂川市青少年指導センター	諏訪
2月22日	子どもと情報メディア～子どもの心と体を育てるために大切なこと～	真狩町保育園	中谷
2月23日	未定	大成中学校保護者(せたな町)	中谷
2月24日	生徒向け授業	大成中学校	
2月25日	メディアから子どもを守ろう～携帯ゲーム・スマホなどが与える子どもへの影響～	豊富保育園	諏訪
2月25日	6年生に授業	白老町虎杖小・竹浦小	中谷
3月1日	子どもの発達段階に応じた望ましい学習・運動と電子メディア	北広島	中谷
6月17日	未定	江別市教育委員会	中谷
10月13日	未定	千歳市教育委員会	中谷
10月31日	未定	苫前町	中谷

耳より新着情報



小学館から発行されている保育士さん向けの雑誌

「新 幼児と保育 2/3月号」に「保護者と一緒に スマホのこと考えてみませんか？」

との題でインタビューをもとにした記事が掲載されました。

1150円しますが、ご興味のある方は購入して見てください。

子どもとメディア北海道代表 諏訪 清隆